令和元年度

産業廃棄物処理動向調査報告書

（平成 30 年度実績）

－ 概　要　版 －

令和２年３月

岐　　阜　　県

— 目　　次 —

岐阜県における産業廃棄物の排出及び処理の状況 …… 1

(1) 発生の状況（全県） …… 1
(2) 発生の状況（農業を除く） …… 2
(3) 圏域別の発生状況（農業を除く） …… 3
(4) 処理の状況 …… 4

岐阜県における産業廃棄物の排出及び処理状況の将来推計 …… 7

岐阜県における産業廃棄物の発生及び処理の状況

(1)発生の状況（全県）

発生量 4,893 千トンを種類別にみると、多い順に有機性汚泥が 1,824 千トン（構成比率 37.3%）、家畜ふん尿が 910 千トン（18.5%）、がれき類が 679 千トン（13.9%）、金属くずが 295 千トン（6.0%）、無機性汚泥が 222 千トン（4.5%）、ガラスくず等が 191 千トン（3.9%）となっており、この上位 6 品目で総発生量の 8 割以上を占めている。

業種別にみると、多い順に建設業が 933 千トン（構成比率 19.1%）、農業が 912 千トン（18.6%）、下水道業が 898 千トン（18.3%）、パルプ・紙が 814 千トン（16.6%）、窯業・土石が 269 千トン（5.5%）、プラスチックが 182 千トン（3.7%）で、この上位 6 業種で総発生量の約 8 割を占めている。

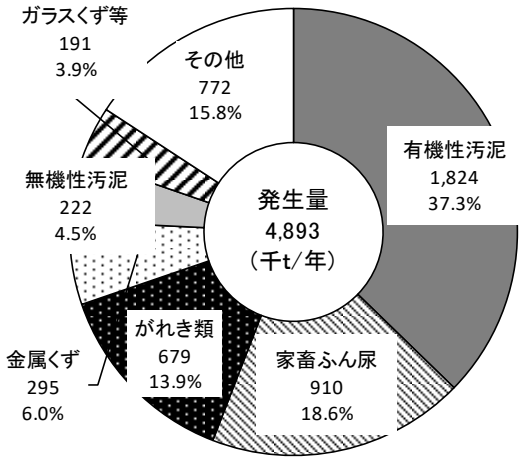

図 1 種類別の発生量

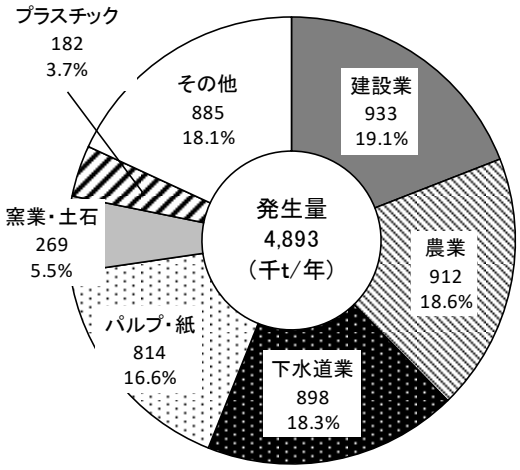

図 2 業種別の発生量

(2)発生の状況（農業を除く）

農業を除く発生量 3,981 千トンを種類別にみると、多い順に有機性汚泥が 1,824 千トン（構成比率 45.8%）、がれき類が 679 千トン（17.1%）、金属くずが 295 千トン（7.4%）、無機性汚泥が 222 千トン（5.6%）、ガラスくず等が 191 千トン（4.8%）となっており、この上位 5 品目で総発生量の約 8 割を占めている。

業種別にみると、多い順に建設業が 933 千トン（構成比率 23.4%）、下水道業が 898 千トン（22.6%）、パルプ・紙が 814 千トン（20.4%）、窯業・土石が 269 千トン（6.8%）、プラスチックが 182 千トン（4.6%）、生産用機器が 94 千トン（2.4%）で、この上位 6 業種で総発生量の約 8 割を占めている。

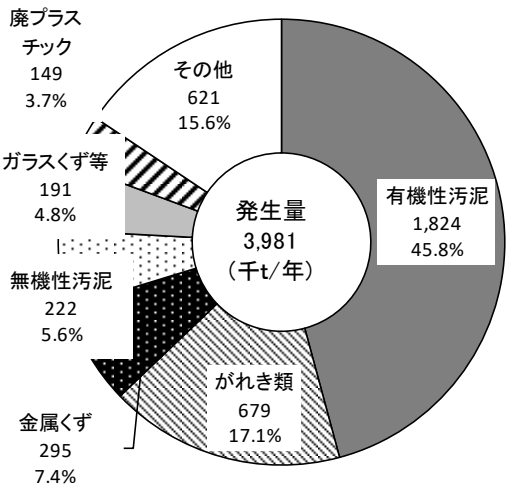

図 3 種類別の発生量

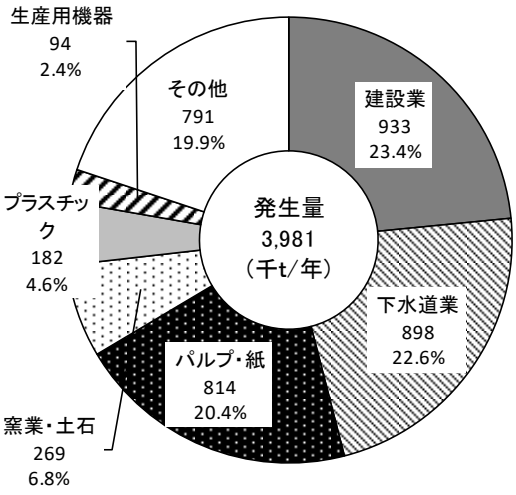

図 4 業種別の発生量

(3)圏域別の発生状況（農業を除く）

農業を除く発生量（3,981 千トン）を圏域別でみると、西濃圏域が 1,157 千トン（29.1%）と最も多く、次いで、中濃圏域が 976 千トン（24.5%）、岐阜圏域が 878 千トン（22.1%）、東濃圏域が 749 千トン（18.8%）、飛騨圏域が 220 千トン（5.5%）となっている。

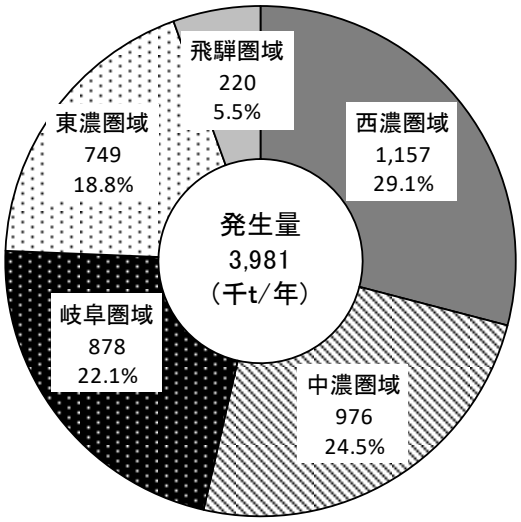

図 5 圏域別の発生量

(4)処理の状況

①処理状況の概要

農業を除く発生量（3,981 千トン）の内、資源化量は 1,801 千トン（構成比 45.2%）、減量化量 2,054 千トン（51.6%）、最終処分量 126 千トン（3.2%）となっている。

また、最終処分量のうち、何ら中間処理されることなく最終処分された直接最終処分量は 36 千トン（0.9%）となっている。

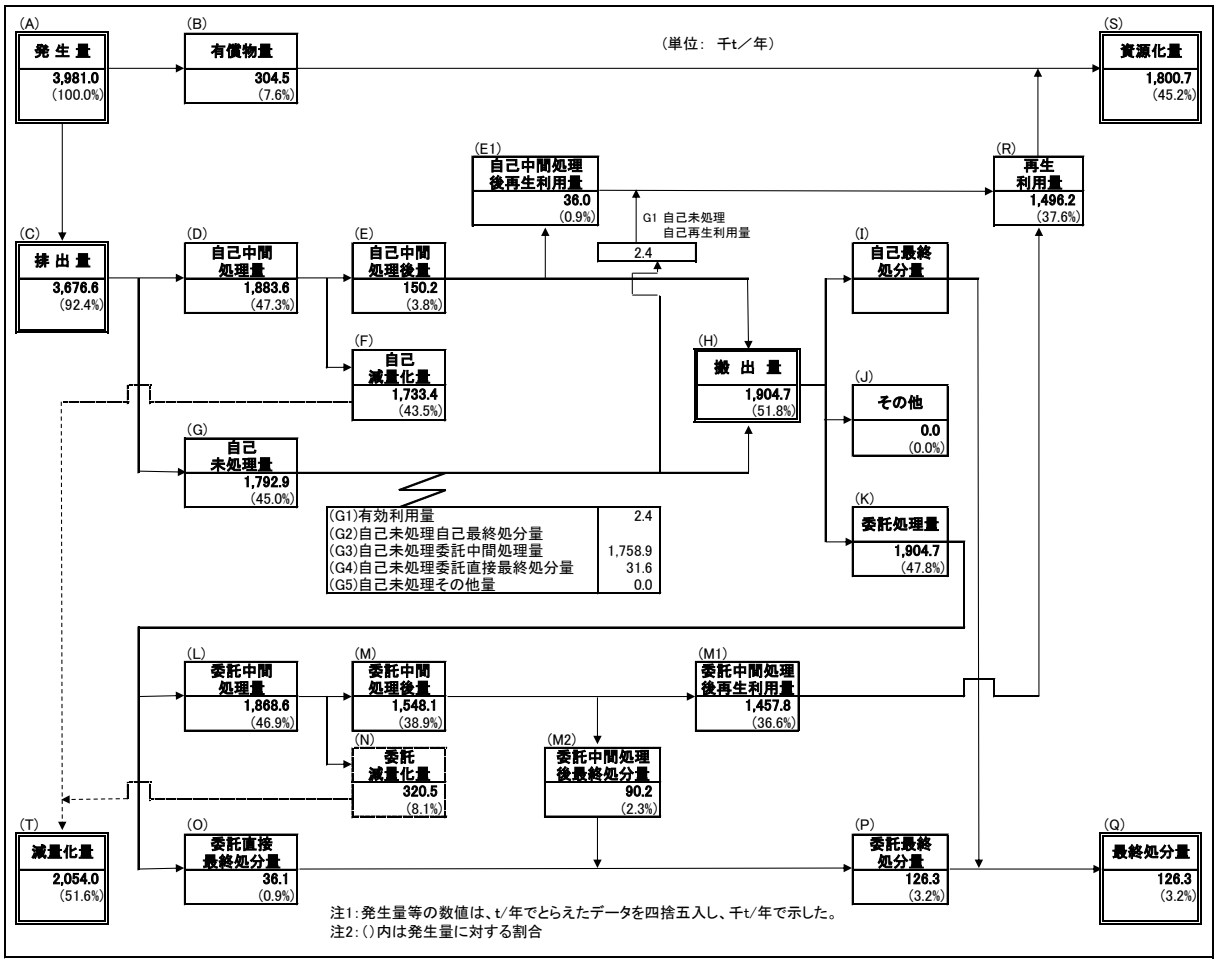

図 6 発生及び処理の状況

②種類別の処理状況

資源化率が最も高いのは、金属くず（99.8%）であり、次いで、がれき類(97.6%)、紙くず（96.3%）、ばいじん（94.7%）、廃タイヤ（94.1%）、鉱さい（91.4%）となっている。

減量化率が最も高いのは、有機性汚泥（92.3%）であり、次いで、廃アルカリ（81.8%）、廃酸（81.4%）の順となっている。

最終処分率が最も高いのは、ゴムくず（95.1%）であり、次いで、建設混合廃棄物（35.7%）、廃プラスチック（18.0%）、燃え殻（14.5%）となっている。

なお、最終処分量が最も多いのは、廃プラスチック（27 千トン）であり、次いで、ガラスくず等（18 千トン）、がれき類（16 千トン）、有機性汚泥（14 千トン）となっている。最終処分量のうち、中間処理されることなく、直接最終処分された廃棄物は、多い順に、無機性汚泥（8 千トン）、ガラスくず等（6 千トン）、鉱さい（5 千トン）、がれき類（4 千トン）となっている。

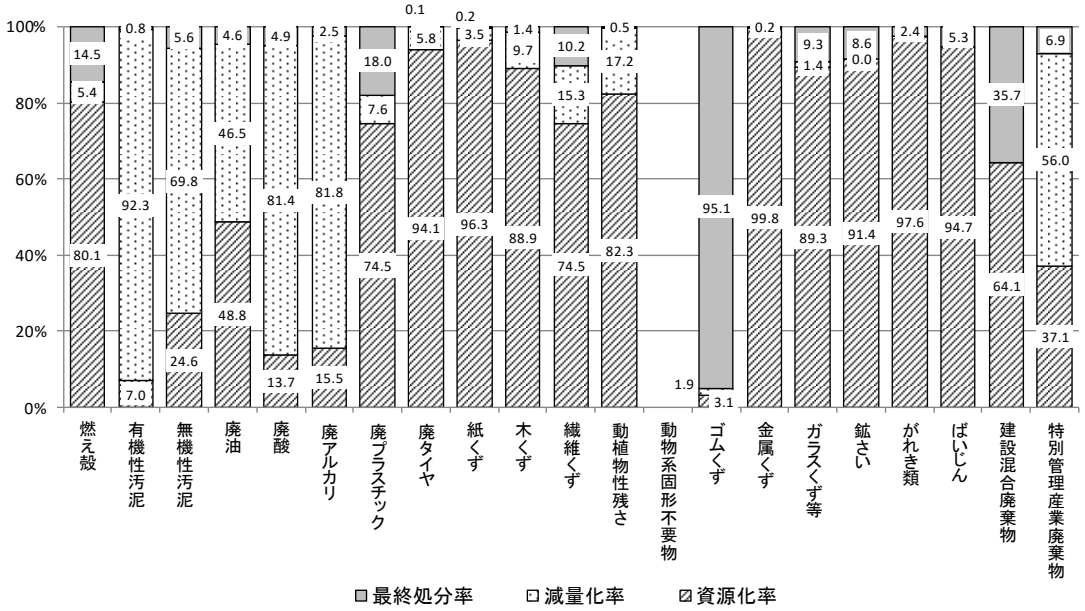

図 7　種類別の処理率（全県：農業を除く）

③広域処理の状況

排出事業者における産業廃棄物の中間処理の委託量は 1,869 千トンであり、このうち、県外で処理された量は 534 千トンとなっている。県外で処理された量を地域別にみると、愛知県で 352 千トン（構成比 65.9%）、次いで三重県が 62 千トン（11.7%）、近畿地方が 46 千トン（8.6%）となっている。

また、排出事業者における委託直接最終処分の委託量は 36 千トンであり、このうち県外で処理された量は 10 千トンとなっている。県外で処理された量を地域別にみると、搬出先で最も多いのは、三重県で 3 千トン(構成比 36.3%)となっている。

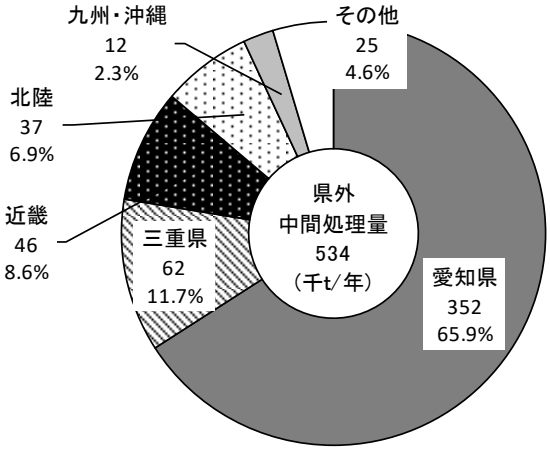

図 8　地域別の委託中間処理量

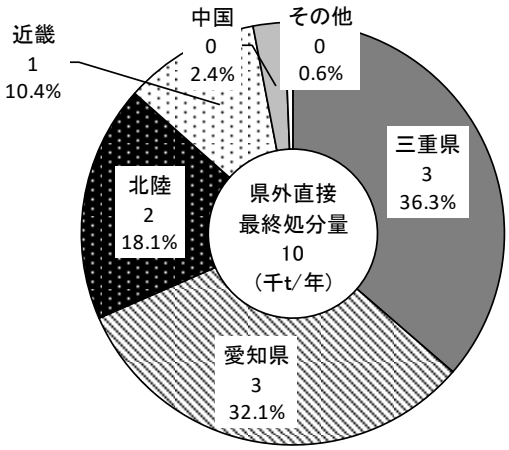

図 9　地域別の委託直接最終処分量

岐阜県における産業廃棄物の排出及び処理状況の将来推計

処理・処分状況についての将来予測結果は、図 10 及び表 1 に示すとおりである。なお、処理状況は、現状の廃棄物別の技術動向で推移するものとして、新技術や処理能力の向上等は考慮していない。

資源化量は平成 30 年度（1,801 千トン、45.2%）に対し、令和 12 年度は 1,777 千トン（44.4%）、減量化量等は平成 30 年度（2,054 千トン、構成比 51.6%）に対し、令和 12 年度は 2,093 千トン（構成比 52.3%）、最終処分量は平成 30 年度（126 千トン、3.2%）に対し、令和 12 年度は 130 千トン（3.2%）と予測された。

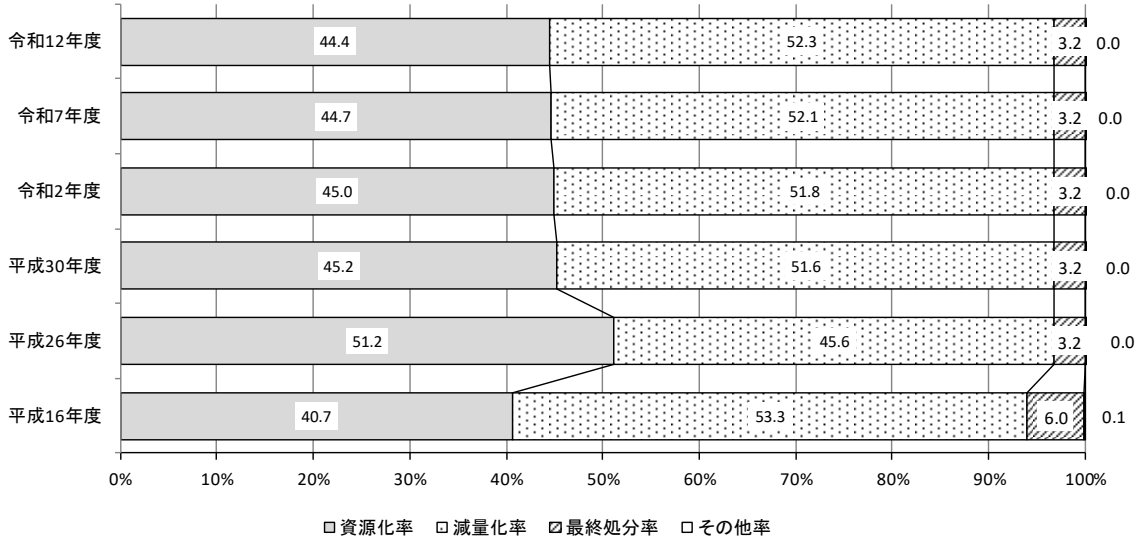

図 10　排出量及び再生利用量等の将来推計値

表 1　処理・処分状況の将来予測結果

種　類	平成16年度		平成26年度		平成30年度		令和2年度		令和7年度		令和12年度	
	量（千ｔ）	構成比	量（千ｔ）	構成比	量（千ｔ）	構成比	量（千ｔ）	構成比	量（千ｔ）	構成比	量（千ｔ）	構成比
発生量	4,183	100.0%	3,934	100.0%	3,981	100.0%	3,992	100.0%	4,011	100.0%	4,000	100.0%
資源化量	1,701	40.7%	2,014	51.2%	1,801	45.2%	1,796	45.0%	1,793	44.7%	1,777	44.4%
減量化量	2,230	53.3%	1,792	45.6%	2,054	51.6%	2,069	51.8%	2,089	52.1%	2,093	52.3%
最終処分量	249	6.0%	126	3.2%	126	3.2%	127	3.2%	129	3.2%	130	3.2%
その他量	3	0.1%	2	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

※端数処理の関係で、合計は一致しない。